

# だんだんなあ

Vol.6

2016年3月15日発行

発行：人吉球磨地域在宅医療連携拠点事業

## 在宅医療の理想郷実現に向けて



### 末期癌患者の在宅医療について

人吉医療センター緩和・在宅医療センター  
西村卓祐

「畳の上で死ぬ」という言葉があります。この言葉の意味は、事故や変死ではなく、当たり前死に方をすることだそうです。つまり昔の人は、自宅で死ぬことが当たり前と考えていました。しかし、現在はどうでしょう。ほとんどの方は、病院で亡くなるのが当然と思っているのではないのでしょうか？

特に癌には、痛い・苦しいというイメージがあるため、自宅療養は無理と思われがちです。しかし、実際には、癌であっても最期まで自宅で過ごされる方も少なからずいらっしゃいます。今日は、癌患者さんの自宅療養についてお話ししたいと思います。

患者さん本人が、自宅療養を希望されてもご家族だけで患者さんを看病することには不安があると思います。そのようなときは、訪問看護を利用することが出来ます。定期的に看護師が患者さん宅へ訪問し、症状を観察して医師に報告し、医師はその報告に基づいて指示を出します。

このシステムにより、調子がよいときは訪問看護を受けながら、自宅で療養することが出来ます。もちろん調子が悪いときは、入院もいつでも出来ます。

自宅では、点滴が出来ないと不安に思われる方もおられると思います。しかし、癌患者さんへの過剰な点滴は、胸やお腹に水がたまったり、痰が増えたりなど、むしろ苦痛が強くなることが多いため、点滴は必ずしも必要ありません。ただ、必要最低限の点滴は自宅で行うことも可能です。

また、胸やお腹に水がたまる方も医師が定期的に訪問し、水を抜くことも可能です。

このように病院・訪問看護をはじめとする様々な社会資源を利用することにより、例え末期癌の患者さんであっても、自宅で穏やかに過ごすことは可能なのです。自宅に帰られた患者さんは、一様に皆さんとてもよい表情になられます。

もしもあなたやご家族が癌になられた時に、自宅で療養したいと思われたら、いつでもご相談ください。



報告

### positive な在宅・終末期ケア ～看取りの文化を再興する～



人吉球磨在宅ドクターネットが主催する講演会が2月12日、人吉市のアンジェリーク平安であり、参加した約100名が在宅医療の現状と課題を学びました。

特別講演では、広島県山県郡北広島町にある雄鹿原診療所の所長・東條環樹先生(写真)による「positive な在宅・終末期ケア ～看取りの文化を再興する～」と題したお話があり、山間地域での在宅医療の現状を報告されました。

東條環樹先生は、1996年に自治医科大学卒業後、広島県職員として採用された後、2008年からは雄鹿原診療所所長として地域医療に貢献されており、さまざまな取り組みで全国的にも知られる医師です。

スライドを映しながらのお話の中で、「山間地域では無い

## 東條環樹先生講演会

ものだらけですが、熱意と知恵とチーム力はある」と話され、医師・看護師・ケアマネとの連携の実例を紹介されました。

東條環樹先生は「刺激が少ない田舎では、

医師としてのモチベーションを高く保つことが非常に大切です。」と話され、「在宅医療を進めるためには、一人ひとりが住みやすい地域づくりを目指すことが大事。『してほしいことをする』、『かけてほしい言葉をかける』などの心構えが必要でしょう」と締めくくられました。





# 在宅医療の理想郷実現に向けて

## 医療と介護の連携は人吉球磨が一体となって

あさぎり町地域包括支援センター 恒松みゆき

地域包括支援センターでは、介護保険・認知症・介護予防・権利擁護など、高齢者の皆様のさまざまな相談に応じています。

日々の活動の中で主治医の先生方との連携は欠かせず、本町では平成 26 年度から「医療と介護の連携のための多職種研修会」を実施しています。町内の医師・歯科医師・薬剤師・ケアマネ・介護事業所などの皆様に集まっていただき、顔の見える関係づくりを目的にグループワークや事例検討を行っています。先生方から「敷居を低くしているので、遠慮なく相談してほしい」、ケアマネさんからは「先生に相談しやすくなった」などの声が聞かれています。

圏域では 26 年度から郡市医師会で取り組まれた「在宅医療拠点事業」、上球磨地域でのモデル事業など先駆的に実施してこられ、ドクターネットの活動など実績をあげておられます。しかし、国は医療

と介護の連携に関する事業を、「30 年度までに市町村主体で実施すること」としていることから、今後の進め方について人吉保健所・市町村担当で昨年からの協議を行ってきました。

人吉球磨は一つの医療圏という実状がありますので、単独町村で取り組むより連携して実施したほうが効果的との考えからまずは圏域での課題をもとに、統一した目指すべき方向性を検討できる場をつくり、医療・介護の連携がスムーズになるよう統一した情報共有ツールなどの検討をすすめます。



## 在宅医療をすすめるために

球磨郡公立多良木病院在宅医療センター 春口洋賜

平成 25 年 4 月、公立多良木病院に在宅医療センターが設置され、また 27 年秋には訪問看護ステーションが開設されました。当センターでは 4 人のスタッフとともに、これまで約 30 人の在宅看取りを経験し、現在約 45 人の訪問診療を行っています。

私は在宅医療が楽しく、面白いと感じています。なぜでしょう？

外来診察、入院時とは異なる患者さんの表情やしぐさ。在宅診療では、患者さんの本当の姿がわかるのです。サプライズもあります。僅かな外来診療時間では、患者家族のバックグラウンドは把握できませんでした。また在宅医療では、これまで経験した(学習した)価値観では対応できないことが多く、病院医療とは異なる観点からのアプローチが必要だと実感しています。

在宅医療の成立する要件を考えると、

- ①在宅療養、在宅看取りに対する本人の強い希望とそれを受容する家族、介護人の覚悟
- ②治療が期待できない疾患
- ③医療機関への定期受診が困難
- ④在宅看取りまでやってくれる医師の存在
- ⑤地域包括ケア体制の確立と多職種連携の構築

以上のようなところでしょうか。

在宅医療の基本態度について宮森正先生(私の同級生です)はその著書『たのしい緩和ケア・面白すぎる在宅ケア』のなかで、「24 時間対応といつでもオンコール対応」と述べています。また速やかな初動も重要だと思います。

これからは人口減少の一方、独居老人、老老家族、認知症(認認)家族は増加していきます。私たちが在宅医は、その前線で立ち向かわねばなりません。僅かなパワーでは困難です。そのため多(他)職種との連携はますます重要になってきます。そして連携を行う上で、患者さんの押しつけや責任転嫁があってはならないことは言うまでもありません。ドクターネットのさらなる充実が期待されるのです。





特集

# 在宅医療の理想郷実現に向けて

## 元気な内から家族との話し合いを

湯前町長 鶴田正己



郡市医師会におかれましては在宅医療連携拠点事業などに取り組み、地域住民のみなさんが安心して生活できる体制づくりにご尽力いただいておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、人生の最後を迎える、いわゆる看取りをどこで迎えられているかという8割ほどが病院で、自宅はわずか1割程度だそうです。

2025年には年間160万人以上が亡くなる多死社会を迎えることとなり国は在宅医療を推進しています。

自分が健康な内はなかなか自分の最後を思い描くことはむずかしいのかもしれませんが、人生の最後を過ごしたい場所について元気な内に普段から家族と話し合っておくのも大切なことではないでしょうか。

病院や施設が安心だと思う人、自宅で看取られるのが

理想と思う人などさまざまだと思います。私も可能な限り、最後は自宅で過ごせることができればいいなと考えています。今後、住み慣れたところで最後を迎えたいという方は増えると思います。ただ、そのためにはそれを可能とする地域の在宅医療介護連携体制が重要です。

上球磨3町村では平成26年度から県の在宅医療介護連携推進モデル事業に取り組んでいます。医療・介護関係者向けの研修会や住民向けの講演会などを開催し、顔のみえる関係づくりや看取りに対する啓発等を実施しています。今後、住民の方々に在宅医療について周知を図り、病院での看取りだけでなく、住み慣れた自宅や施設での看取りなどいろいろな選択肢があるということを十分啓発していかなければなりません。

今後とも医療、介護関係各位と連携し、またご協力を得ながら病気になっても可能な限り慣れ親しんだ場所で自分らしく過ごすことができるよう地域包括ケアシステムの構築に努めてまいります。



## ICTを活用して情報の共有を

山江村長 内山慶治



2025年には団塊の世代が75歳を迎えられる、いわゆる2025年問題を控え、地域において疾病や要介護状態にある高齢者数が増加することは避けられないのが状況です。これらの問題に対応するためにも、また重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が急務であると言えます。

人はもともと住み慣れた地域に戻るのには、本来誰もが望むことですが、現在の医療・介護の体制においては、なかなか難しいのが現状です。病院から在宅への移行支援をどのように進めていけば、高齢者、またその家族や地域に暮らす方にとって幸せな生活が送れるようになるのが真剣に考える時期がきています。

入院にしても在宅介護にしても金銭的、精神的にも悩みを有しておられる現状がありますが本村では、その支援策として、要介護3以上の方を介護されている家族介護

者に対し月10,000円の在宅介護手当を支給し、また介護者の交流の場を設けて、情報共有しています。今後の方向性としては在宅復帰の支援としてICT（情報通信技術）を活用した医師・薬剤師・ケアマネ・行政等の情報共有の仕組み構築を視野に入れて進めています。ICTを活用することにより切れ目のない継続的なサービスが期待でき、急変時の対応も可能となるのではないかと考えます。またICTを活用することで、在宅復帰支援のみならず介護予防・生活支援も期待できると考えられます。

また、最終的には地域の福祉、地域住民の支え合いがなくては住み慣れた地域で最期まで住み続ける在宅医療はできません。今後、地域住民の支援と医療と介護の連携体制の構築が不可欠です。在宅医療を推進するうえで、医師、及び看護師等の人員不足が懸念されていますが、国には推進に向けての細やかな支援を期待します。地域住民の支え合いこそが在宅医療を推進するうえで最も重要な鍵といえるでしょう。

# だんだんなあ 2年間のあゆみ

第1号 2014年12月25日発行



# 本事業関連の主な出来事

- ・第1回球磨地域在宅医療連携体制検討会議 (H26.10.2)
- ・人吉球磨在宅ドクターネット設立総会 (H26.10.22)
- ・人吉・球磨在宅ドクターネット主催講演会  
安成英文先生講演会 (H26.10.23)
- ・在宅医療先進地視察 福井県坂井地区 (H26.11.13～14)
- ・ホームページ「だんだんなあネット」開設 (H26.12.1)
- ・情報誌「だんだんなあ」第1号発行 (H26.12.25)
- ・情報誌「だんだんなあ」第2号発行 (H27.1.25)
- ・「在宅医療」制度を啓発推進する市民公開講座  
柏木哲夫先生講演会 (H27.1.31)
- ・情報誌「だんだんなあ」第3号発行 (H27.1.25)
- ・「在宅医療を考える」講演会 國森康弘さん (H27.7.29)
- ・情報誌「だんだんなあ」第4号発行 (H27.8.1)
- ・情報誌「だんだんなあ」第5号発行 (H27.10.24)
- ・「地域医療を考える市民公開講座」 (H27.11.21)
- ・人吉・球磨在宅ドクターネット主催講演会  
東條環樹先生講演会 (H28.2.12)
- ・情報誌「だんだんなあ」第6号発行 (H28.3.15)

## 「看取り事例報告会」のお知らせ

人吉球磨在宅ドクターネットでは、「看取り事例報告会」を下記のとおり開催いたします。看取りに興味のある方ならどなたでも聴講できますので、ぜひご参加ください。

**日時：3月28日(月) 午後7時～**  
**会場：アンジェリーク平安(人吉市宝来町)**

参加申し込みは球磨郡医師会(☎42-4797) 在宅専任官の木村までどうぞ。

## 【編集後記】

私は今年初めて、いまや人吉球磨の春の風物詩となったひとよし春風マラソンに参加しました。老若男女、様々な年齢の方が一緒になって汗を流し気持ちいい笑顔をしておられました。この素晴らしい笑顔をずっとずっとこの人吉球磨で見ていたい…。

私たちは約2年間、この「だんだんなあ」を発刊し、地域住民の方に在宅医療とは何か、という事を情報発信してきました。今回を含めても6回の発刊で在宅医療の全てを発信できたとは思っていません。しかし、皆さんの心に『そう言えば、こんな情報誌があったね。』『在宅医療って、これから大切になるんだね。』と少しでも刻まれたのであれば良かったと思います。私たち医療や介護、福祉に携わるものだけでなく、地域住民皆さんが手を取り、この人吉球磨で何十年、何百年と安心して暮らしていけるようにして行けたら…。

私は人吉球磨の美しい町並みと応援してくれる地域住民の方々、一緒に走る選手の笑顔を見ながらそう感じました。  
(入江祐公)

## お知らせ

当事業の公式ホームページをご活用ください。



「だんだんなあネット」では、在宅医療に関する情報や本事業の活動を紹介しています。「施設検索」「外部リンク集」などを掲載し、情報誌「だんだんなあ」のダウンロードも可能となっています。



PC・スマホ両対応ですので、是非アクセスしてみてください。

<http://www.dandanna.net/>

編集・発行  
人吉球磨地域在宅医療連携拠点事業 事務局  
〒868-0037 熊本県球磨郡多良木町多良木 3051  
球磨郡医師会内 ☎0966-42-4797  
E-mail kumadr@bronze.ocn.ne.jp